

論文審査及び最終試験又は学力の確認の結果の要旨

甲	氏名	渡邊 正章
学位論文名	Oral Soft Tissue Disorders are Associated with Gastroesophageal Reflux Disease: Retrospective Study	
学位論文審査委員	主査	神田 秀幸
	副査	森田 栄伸
	副査	近藤 誠二
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>胃食道逆流症 (Gastroesophageal Reflux Disease: GERD) の食道外症状のひとつに歯牙酸蝕症 (Dental Erosion: DE) がある。口腔には硬組織と軟組織とがあり, GERD と, DEを主とする硬組織疾患との関連は報告されているが, 軟組織疾患との関連は見当たらない。また, これまでGERD患者の唾液分泌機能と嚥下機能の低下を明らかにしてきた。そこで, 本研究は, GERDと, 唾液分泌機能, 嚥下機能, さらに歯周疾患や口腔粘膜炎 (Oral Soft Tissue Disorders: OSTDs) を主とする口腔の軟組織疾患との関連を明らかにする目的とした。</p> <p>対象は, 本研究への同意が得られたGERD群105名 (平均年齢: 66.4歳), 老年コントロール群25名 (平均年齢68.3歳), 若年コントロール群25名 (平均年齢28.7歳) とした。唾液分泌量測定, 嚥下機能検査, 歯周疾患ならびに口腔粘膜炎の評価を行った。またGERD症状と同時に起こるとされるBruxismの有無を問診調査した。さらに, GERDの重症度別に各項目の比較検討を行った。統計学的解析は2群間の検討をWilcoxon 順位和検定を, 3群間の検討をKruskal-Wallis 検定を用いて行った。</p> <p>結果として, GERD群は, 唾液分泌機能と嚥下機能が有意に低下していた。GERD群は歯周疾患の罹患が有意に多く, またGERD群にのみ口腔粘膜炎が認められた。Bruxismについては, GERD群において有意に多かった。GERDの重症度別に各項目との関連はみられなかった。</p> <p>本研究より, 口腔の軟組織疾患の発症はDEと同様に, GERDとの関連性が示唆された。</p>		
<p>最終試験又は学力の確認の結果の要旨</p> <p>申請者は, コントロール群と比較して, GERD患者と口腔の軟組織疾患の関連を疫学的に明らかにした。口腔の軟組織疾患と内科系疾患であるGERDとをつなげる予防医学的示唆に富む研究であった。質疑応答も的確で, 周辺知識も豊富であり, 学位授与に値すると判断した。 (主査 神田秀幸)</p> <p>申請者は, GERDと口腔内病変の関連を明らかにする目的で, GERD患者と健常人の口腔所見を臨床的に観察した結果, GERD患者では唾液分泌機能と嚥下機能が有意に低下, 歯周疾患と粘膜炎が有意に多いことを確認した。結果の解釈, 考察も十分で学位に値すると判断した。 (副査 森田栄伸)</p> <p>申請者の研究によって, 日常的に口腔内を観察している歯科医師が, DEなど硬組織変化のみならず, 歯周疾患, 口腔粘膜炎ならびに口腔乾燥状態から, GERDの存在を推測できる可能性があり, 医学, 特に口腔医学の発展に大きく貢献した成果と言える。以上より学位授与に値すると判断した。 (副査 近藤誠二)</p>		

(備考) 要旨は, それぞれ400字程度とする。